

《方針2》 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

〔施策の柱1〕 豊かな心の育成

施策名	① 個性を尊重する人間関係づくり																										
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P.33																					
	B																										
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長会や教頭会、生徒指導担当者会等で「教職員が子供一人一人の良さを理解し、それぞれが自分らしさを発揮して輝ける環境作り」が推進できるように、豊かな心を育む道徳教育、体験的な活動や道徳教育の実践の場としての特別活動の充実を図るよう働き掛けた。</li> <li>・「富士市子どもの権利条例」について、市こども未来課と連携し、研修の機会を設けた。</li> <li>・令和3年度から研究を進めている「魅力ある学校づくり調査研究事業」（国立教育政策研究所）について、指定校である田子浦小・中学校が成果発表会を行い、これまでの取組や研究成果を全国に発信した。“居場所づくり、絆づくり”をキーワードに、分かる喜びが実感できる授業づくり、自己有用感が醸成される行事の在り方等を市内に定期的に発信した。</li> <li>・生徒指導上の諸問題について、必要に応じてケース会議等を実施しながら教職員、スクールソーシャルワーカー（SSW*）、スクールカウンセラー（SC*）、関係機関が連携し、チームで解決を図った。</li> </ul>																											
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の全ての場面において、子供の思いを想像し、受け止め、その思いに添った指導を実践できるよう、また、心を伝え合う「ことばの力」の育成に努めるよう学校訪問や研修会等で働き掛ける。</li> <li>・各校の「特別活動」や「特別の教科 道徳*」の授業をより一層充実させることで、生命尊重や規範意識、情報モラル意識の向上、多様性を認め合える豊かな心等の醸成に努める。</li> <li>・田子浦小・中学校での継続した取組や新たに魅力ある学校づくりを進める富士川第二小中一貫校松野学園の取組を市内に発信する。</li> <li>・生徒指導担当者会等でチーム対応が機能した市内の好事例を紹介する、SSW の研修を充実させることで関係機関とスムーズに連携するなど、生徒指導体制の構築をより一層確立する。</li> </ul>																											
<p>◆指標 「自分には良いところがあると思う」に「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した子どもの割合</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>R 4</td> <td>R 5</td> <td>R 6</td> <td>R 7</td> <td>R 8</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td>小 85% 中 80%</td> <td>小 85% 中 80%</td> <td></td> <td></td> <td>小 90% 中 85%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>小 79.2% 中 76.1%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	目標		小 85% 中 80%	小 85% 中 80%			小 90% 中 85%	実績		小 79.2% 中 76.1%				
		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8																					
目標		小 85% 中 80%	小 85% 中 80%			小 90% 中 85%																					
実績		小 79.2% 中 76.1%																									

施策名	② 人権感覚の醸成と道徳的実践力の育成																										
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P.34																					
	B																										
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染防止対策として、グループ学習が制限される中でも、各学校が工夫を凝らし、「考え、議論する道徳」の授業実践を推進した。</li> <li>・情報モラル教育の実践を含め、学級活動や道徳の授業を中心に、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育成する人権教育の充実を図った。</li> </ul>																											
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症による規制が少なくなり、グループ学習や体験活動等が通常どおりの実施が予定されているため、道徳的価値の理解だけでなく、道徳的な実践意欲と態度が育つ土壌が整うと考える。</li> <li>・情報モラル教育のさらなる充実をより図り、自他の人権感覚を醸成する必要があると考える。</li> </ul>																											
<p>◆指標 「人が困っているときは、進んで助けている」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した子どもの割合</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>R 4</td> <td>R 5</td> <td>R 6</td> <td>R 7</td> <td>R 8</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td>小 90% 中 90%</td> <td>小 90% 中 90%</td> <td></td> <td></td> <td>小 100% 中 100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>小 88.7% 中 80.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	目標		小 90% 中 90%	小 90% 中 90%			小 100% 中 100%	実績		小 88.7% 中 80.0%				
		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8																					
目標		小 90% 中 90%	小 90% 中 90%			小 100% 中 100%																					
実績		小 88.7% 中 80.0%																									

**〔施策の柱2〕 確かな学力の向上**

<b>施策名</b>	<b>① 主体的に学びに向かう力の育成</b>						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 36	
	B						
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「指導の重点」における目指す子供像「学びを楽しむ」の具現に向け、『子供の姿が見える』単元構想*』『問いに寄り添う』見取りと関わり』『学びの実感』の共有を視点とした、指導主事による全小中学校対象の学校訪問を実施し、授業づくりの視点等について指導した。</li> <li>・校内研修等に指導主事が訪問し、校内研修の在り方、授業づくり、評価等について指導助言を行った。</li> <li>・元吉原小学校・元吉原中学校において、「小中が連携した学習指導の在り方」について、令和2年度からの研究の成果を報告した。</li> </ul>							
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事による学校訪問、各種研修会を通して、「指導の重点」で示した新たな視点を基に「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業づくりを推進できるよう指導・助言をする。</li> <li>・広見小学校、岩松中学校で研究を進めている「ICT を効果的に活用した学習指導の在り方」について、発表会を実施し、両校の研究成果を市内に発信する。</li> </ul>							
◆指標 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目標	小 80% 中 75%	小 80% 中 80%			小 90% 中 80%
		実績	小 77.5% 中 78.1%				

<b>施策名</b>	<b>② 習得、活用、探究による学びの深化</b>						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 37	
	B						
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広見小学校、岩松中学校を、ICT を活用した学習指導研究校に指定し、学びの充実の在り方を研究した。</li> <li>・ICT を効果的に活用するなど学びの最適化を図り、習得・活用・探究という学びの過程の中で「深い学び」を実現できるよう、学校訪問を通して指導助言を行った。</li> <li>・指導の重点を作成し、目指す子供像や授業の在り方等について視点を示した。また、これらをもとに学校訪問の中で授業改善についての指導助言を行った。</li> </ul>							
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広見小学校、岩松中学校の ICT を活用した学習指導研究の発表を通して、授業改善の進め方や校内研修の在り方等を共有し、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善を推進する。</li> <li>・市内全小中学校への指導主事等による学校訪問を通し、授業改善に向けた指導助言を行い、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善を推進する。</li> </ul>							
◆指標 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」に「よく行った」と回答した学校の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目標	小 30% 中 45%	小 30% 中 45%			小 50% 中 60%
		実績	小 25.9% 中 37.5%				

〔施策の柱3〕 健やかな体づくり

<b>施策名</b>	① 生活習慣を整えられる子どもの育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 39
	B					
◆取組実績（成果と課題）						
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣や心身の健康の保持増進を目指す取組を行った。</li> <li>各種健康診断結果を活用して課題となる事項を見だし、効果的な取組を行った。</li> <li>学校保健委員会等を活用し、家庭や地域、学校医などの関係機関と連携した取組を推進した。</li> <li>子供たちが栄養バランスのとれた食事の大切さを認識できるよう、食に関する教育の支援を行った。</li> <li>「学校生活アレルギーマニュアル」を活用し、アレルギー疾患の子どもへの対応を学校全体で行った。</li> </ul>						
◆次年度への展望						
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣や心身の健康の保持増進について、科学的根拠に基づいた指導を実施することで指導の充実を図る。</li> <li>児童生徒の健康課題について、中学校区、家庭や地域、学校医などの関係機関と連携し、解決に向けて引き続き指導をしていく。</li> </ul>						
◆指標						
毎日、同じくらいの時刻に寝ていると答えた子どもの割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目標	小 80% 中 76%	小 84% 中 78%			小 85% 中 80%
	実績	小 82.3% 中 76.0%				

<b>施策名</b>	② スポーツを楽しむ子どもの育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 40
	B					
◆取組実績（成果と課題）						
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全対策委員会において作成した、プール安全管理の手引きを全小中学校に配布し、プールの実施や感染症等に対する安全対策を行った。また、令和4年度に作成した「富士市小中学校熱中症予防対策ガイドライン」を全小中学校に配布し、学校生活や運動時における熱中症予防対策を講じるよう周知した。</li> <li>体育等の授業において、外部人材やプロスポーツ選手を招聘し、教員の資質向上を図るとともに、専門的な学習の場を設けることで、子供の運動に対する動機付けを高める事業を積極的に活用した。</li> <li>部活動指導員の配置について、効果的な配置を検討し、1名を増員するとともに、部活動指導員の研修会を開催し、指導員の資質・能力の向上を図った。</li> <li>小学生、中学生ともに、コロナ禍や社会環境の変化に伴う運動機会の減少の影響を受け、体力の低下が著しい。</li> </ul>						
◆次年度への展望						
<ul style="list-style-type: none"> <li>どの学校においても、国の働き方改革に伴う行事や日課の見直しが進み、朝や放課後に学校で運動する機会が削減されていく中、体を動かすことの楽しさを実感できるよう ICT を活用するなど、体育科の授業を改善し、心と体のバランスを保てるようにする。</li> <li>体力づくりに取り組む県主催事業への参加を、市内の小中学校に推奨し、仲間と関わりながら目標に向けて協力する楽しさや達成した喜びを実感させるなど、運動に意欲的に関わる機会の提供に努める。</li> <li>「部活動地域移行」を視野に入れ、子供にとって持続可能な望ましい運動部活動の在り方を検討していく。</li> </ul>						
◆指標						
「運動やスポーツをすることが好きか」に「好き」「やや好き」と回答した子どもの割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目標	小 95% 中 90%	小 95% 中 90%			小 95% 中 95%
	実績	小 88.6% 中 80.4%				

施策名	③ 自ら命と体を守るための安全教育の充実																													
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 41																								
	B																													
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内小学校で毎年実施されている「交通安全リーダー*と語る会」を、警察や市役所関係課職員、交通指導員等を招いて開催した。GIGA タブレットを活用し、地域の危険箇所を撮影・共有し、安全な歩き方等について話し合い活動を行う等、子供が主体的に取り組む姿が各校で見られた。</li> <li>火災や地震、津波等、地域の実態に即した避難訓練を各校で実施した。自ら危険を回避し、命を守れるよう災害の内容に合わせて適切な行動がとれるよう安全教育を推進した。</li> <li>交通安全協会やトラック協会による自転車乗り方教室、交通安全教室等を開催し、歩行者及び自転車の利用者として道路及び交通の状況に応じて、危険を予測、回避する能力を高めた。</li> <li>通学路の安全点検等で把握した校区の危険箇所について、各校からの学校だより等で子供や保護者、地域に発信し情報を共有した。</li> </ul>																														
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に、自分の命を守るために適切な行動ができるよう、具体的な事例を基に「どう行動すればよいか」を話し合う中で、判断力を育成する。</li> <li>これまで同様、地域防災への参加を促し、被災時に地域の力となる児童生徒を育成する。</li> <li>市内学校で発生した火災を受け、改めて校内防災体制の見直しを依頼する。また、消防本部と連携し、火災時の正しい対応について、研修動画を作成する。</li> </ul>																														
<p>◆指標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 4</th> <th>R 5</th> <th>R 6</th> <th>R 7</th> <th>R 8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「緊急時に自分の命を守るために適切な判断をとることができる」と回答した児童生徒の割合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>小 60% 中 70%</td> <td>小 100% 中 95%</td> <td></td> <td></td> <td>↑小 100% ↑中 100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>小 94.0% 中 88.4%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	「緊急時に自分の命を守るために適切な判断をとることができる」と回答した児童生徒の割合						目標	小 60% 中 70%	小 100% 中 95%			↑小 100% ↑中 100%	実績	小 94.0% 中 88.4%				
	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8																									
「緊急時に自分の命を守るために適切な判断をとることができる」と回答した児童生徒の割合																														
目標	小 60% 中 70%	小 100% 中 95%			↑小 100% ↑中 100%																									
実績	小 94.0% 中 88.4%																													

〔施策の柱4〕 頼もしい教職員の育成

施策名	① 教職員の資質・能力の向上					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 43
	B★					
◆取組実績（成果と課題）						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校全てに学校訪問を行った。研修センター所長、指導室長、指導主事、静岡大学教授等が指導案や授業の進め方等について指導を行い、教職員の資質向上につなげた。各校の良い実践を価値付けたことにより、教職員の自信につながったとの声をいただいた。</li> <li>・業務提携している静岡大学の教授等を、市教委による訪問以外に、校内研修や教科等の主任者会、教頭会等に講師として招聘し、指導を受けた。令和4年度は27名の静大教授等を、67回招聘し、講話を聞くことで教職員の意識改革と、資質の向上につなげた。</li> <li>・田子浦小・中学校による「魅力ある学校づくり」、元吉原小・中学校による、「小中一貫教育」、それぞれの研究を、市内の教職員に公開した。参観した教職員が「自分の学校でも実践したい」と感想をもつなど、当該校が研究で得た成果を広めることができた。</li> <li>・不祥事根絶に向けては、月に1度行われる、校長会や教頭会の中で「危機管理研修」を行い、学校の初期対応の検討や、過去の事例研修を通して、管理職として意識しなければならないことを確認した。また、各学校においても、職員会議等で、事例研究を行ったり、自分たちの勤務やサービスについて見直しをしたりする時間を設け、教職員の意識を引き締めを図った。</li> </ul>						
◆次年度への展望						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研修会については、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しつつ、同じ会場に集まり、互いの顔を見ながらより効果的な研修を実施していく。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」を意識した学びとGIGAタブレットを取り入れた授業改善を引き続き各学校に指導し、日々の授業がより良いものにしていくために働きかけていく。要請に応じて指導主事を学校に派遣し、研修の進め方の助言をしたり、授業について意見を述べたりして、教職員の授業力向上を目指す。</li> <li>・継続して不祥事根絶研修を行い、信用失墜行為の根絶を目指す。</li> <li>・静岡県教育委員会の発行する「コンプライアンス*通信」、交通KYT*等を活用した不祥事根絶研修や体罰・暴言、セクハラアンケートを通して、教職員一人一人が指導のあり方を振り返る場を設ける。</li> <li>・教職員が互いに日常から声を掛け合い、気持ちよく働きやすい職場づくりを推進する。</li> </ul>						
◆指標 「安心して子どもを任せられる学校である」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した保護者の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目標	80%	95%			100%
	実績	小96.4% 中93.1%				

施策名	② 学び続ける機会の充実						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 44	
	B						
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>静岡県教員育成指標*に準じ、キャリアステージに応じた年代別研修を実施した。特に教員経験の浅い「3年目研修」には訪問個別支援や指導を行うなど教職員の資質能力の向上につなげた。</li> <li>情報教育研修だけでなく ICT 支援員が日常的に各学校へ訪問することで連携が密となり、教職員の ICT 活用能力の向上及び ICT 学習支援の充実が図られた。</li> <li>「特別な支援を要する子」の増加に伴い、教職員の特別支援教育への関心は高く、アフター5研修*では現場のニーズに応じた研修を開催するなど教職員の自主研修を支援し、資質の向上につなげた。</li> </ul>							
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アフター5研修の数をコロナ前と同様となるように努めているが、対面での開催だけでなくリモート開催も視野に入れた研修運営の見直しを検討する。</li> <li>ミドルリーダー研修*・マイスター研修*の対象教員による実践をアフター5研修などで発表してもらうなど、教員の技の伝承を積極的に図っていく。</li> </ul>							
◆指標 「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」に「よくしている」と回答した学校の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目標	小 65% 中 60%	小 90% 中 75%			小 80% 中 75%
		実績	小 85% 中 69%				

施策名	③ 効果的な教育活動のための働き方改革の推進						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 45	
	B★						
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の勤怠管理システム*導入により、教職員の勤務時間を客観的に測定し、働き方改革に係る取組や時間外勤務時間の公表をすることができている。</li> <li>令和4年度の時間外勤務時間平均は約36時間と「勤務時間の上限に関する方針」に示す原則月45時間以内については、達成できている。</li> <li>教頭及び主幹教諭・教務主任の時間外勤務時間が他の職種よりも多いことは課題である。</li> <li>共同学校事務室*における集中処理する共同体制により、教員の担っている役割を事務が担うことで、教員の多忙化解消につながっている。</li> <li>教職員のストレスチェックを活用し、メンタルヘルスの推進に努めた。</li> </ul>							
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5年目を迎える共同学校事務室の充実を図る。共同学校事務室における書類作成等における教員支援の充実や共同学校事務室運営協議会を中心とした業務の見直しを図り、特に教頭や主幹教諭・教務主任の業務改善に取り組む。</li> <li>提出文書の精選及び提出方法の変更、紙媒体で行ってきた調査の電子媒体への変更、各種様式の見直し等により、教職員が子どもたちに向き合い、支援をする時間を確保する。</li> </ul>							
◆指標 「業務改善が進められているか」に「充分進んでいる」と回答した学校の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目標	50%	80%			↑95%
		実績	75%				

**【施策の柱5】 未来を切り拓く生徒を育成する市立高校**

<b>施策名</b>	<b>① 探究*する精神と姿勢を育む教育活動の推進</b>						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 47	
	B						
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校3年間の5単元で構成する「究タイム*」では、AIを取り入れた教材やプレゼンテーション力を鍛える教材などを新たに取り入れて探究学習の充実を図った。</li> <li>・「究タイム」における「市役所プラン*」やビジネス探究科の「商品開発」や「課題研究」では、企業や団体、生産者の方々の協力により生徒の提案が商品化されるなど授業から発展した活動ができた。</li> <li>・「ふじBousai2022」や「富士市SDGs共想共創プラットフォームイベント」などのイベントで探究学習の成果を発表することができた。</li> <li>・ビジネス探究科3年生が「大学野球オータムフレッシュリーグ in 静岡」の企画運営に参画した。</li> <li>・海外探究研修に替えて国内を研修地とした代替研修を行うことができた。（総合探究科：大分県別府市、ビジネス探究科：長崎県長崎市ほか、スポーツ探究科：沖縄県石垣市）</li> </ul>							
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての生徒が3年間を通して、探究的な力やチームで協働する姿勢を身に付ける課題解決型学習「究タイム」を学ぶ。</li> <li>・各学科や教科の学習の中に、探究を意識した主体的・対話的で深い学びを実践する。</li> <li>・オンラインやICTを効果的に活用した授業改善を進める。</li> <li>・最新のAI活用教材を導入・活用し、社会課題解決に取り組む。</li> </ul>							
◆指標 「探究学習で学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う」と答えた生徒の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目標	87%	88%			95%
		実績	84.9%				

<b>施策名</b>	<b>② 生徒の夢実現への支援と充実</b>						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 48	
	A						
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自己肯定感を高め、生徒が自らの夢に自信を持ち、その実現に向けて一步を踏み出す機会とするためにキャリア教育講演会を開催した。</li> <li>・「生き方・キャリアを考える」と題し、学術顧問*の溝上慎一氏（学校法人桐蔭学園理事長）の講演会を開催した。</li> <li>・3年生に個別の進路実現に向けた個別指導を実施した。</li> <li>・1年生対象の職業人講話や2年生対象の大学模擬授業など、学年別の進路行事を実施した。</li> <li>・陸上競技部、水泳部（飛込競技）、ゴルフ部、チアリーダー部が全国大会に出場した。</li> </ul>							
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な分野において、世界を舞台に活躍されている方を講師に招きキャリア講演会を実施する。</li> <li>・1年次の職業人講話、2年次の大学・学部研究、3年次の進路個別指導など学年に応じたキャリア教育を行う。</li> <li>・全学科における英語資格・検定試験やビジネス探究科における全商検定など資格取得を支援する。</li> <li>・部活動の推進体制と施設・設備を整備する。</li> </ul>							
◆指標 自分の思い描いていた進路を実現できたと回答した生徒の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目標	70%	90%			↑90%
		実績	92.4%				

施策名	③ 地域ネットワークを活用した教育活動及び学校運営の推進						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 49	
	B						
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を年3回開催し、学校経営計画書の承認、学校経営報告書の外部評価等を受けた。</li> <li>・地域の企業や大学の協力を得て、授業や学校行事を実施した。</li> <li>・富士のほうじ茶 Days や成人式など市役所からの依頼を受けてビジネス部やチアリーダー部、吹奏楽部などがイベントへ参加した。</li> <li>・未就学児を対象とした「人工芝で遊ぼう」や聴覚に障害のある子どもたちにスポーツに親しむ機会を提供する「Def キッズサッカー教室」をはじめとした地域交流事業に延べ951人の生徒が参加した。</li> </ul>							
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生が地域の魅力と課題を見付け出し、地域の方と高校生ができることを企画・提案する「市役所プラン」を行う。</li> <li>・ビジネス探究科において、地元の農産品などを利用した商品開発や高校生の視点ならではの新しいビジネスの提案など市内事業所と連携した学習活動を行う。</li> <li>・保護者や地域住民の声を反映した学校づくりをするために、学校運営協議会を開催する。</li> <li>・「人工芝で遊ぼう」や「多世代交流サッカー」、「Def キッズサッカー教室」など、ボランティア生徒が参画し、学校施設を活用した地域交流事業を行う。</li> <li>・学校運営協議会の意見や助言を学校運営に反映しながら地域と連携した教育活動を推進する。</li> </ul>							
◆指標			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
地域社会や大学、行政、企業等と連携して実施した授業や学校行事数		目標	16件	20件			20件
		実績	17件				